

菅島採石場緑化監視委員会会議録（要旨）

会議の名称	令和元年度第1回菅島採石場緑化監視委員会
開催日時	令和元年5月24日（金）10：00～11：10
開催場所	鳥羽市民文化会館4階第3小会議室
事項書	1. 開会挨拶 2. 自己紹介 3. 議題 委員長及び副委員長の選任について 令和元年度緑化計画について 4. その他
配布資料	事項書 席次表 委員名簿 委員会設置要綱 会議資料（資料P1～13、参考資料P1～8）
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし
出席委員	立花委員、中村（孝）委員、小寺委員、中村（幸）委員、清水委員、木下委員、内田委員、安藤委員
関係者	鶴田石材㈱（緑化工事業者として）
欠席委員	辻委員、沼本委員
事務局	総務課 中村（菊）、中村（真）
<p>1. 開会挨拶 （立花副市長より挨拶）</p> <p>2. 自己紹介 （各委員が自己紹介） （中村事務局員より配布物の確認及び参考資料について説明）</p> <p>3. 委員長及び副委員長の選任について （事務局案として委員長に前回と引き続き立花委員を、副委員長として中村（幸）委員を選任することを提案し了承される）</p> <p>3. 令和元年度緑化計画について （鶴田石材㈱より資料に基づき今年度の緑化計画について説明）</p> <p>委員：緑化計画は今年で6年目。計画に準じて施工しているのは認めるが、評価としてはどう考えているか。個人的には参考資料1、2を見たところ、少しだが変化が生じていると思われる。</p> <p>事業者：東山地区については、冬枯れもするがこの時期になると繁茂してくる。大山地区については小段のつる類は少しずつだが大きくなっている。今年度からは従来の植栽に加え地盤改良の他、試験的に菅島の自生植物の移植を試みる予定。</p> <p>委員：昨年度は大山地区の苗木の植栽を1,010本行ったが、経過はどうか。</p> <p>事業者：活着率は個人的な主観だが10%といったところ。昨年度試行したキヅタについては10%以下と思っている。過去にご指摘頂いたが、単純に植栽するだけでは駄目と判断し、今年度は地盤改良も行う予定だ。</p> <p>委員：今年度は180本を植栽するのか。</p> <p>事業者：アキグミは外注するが、アカメガシワやヤシャブシなどは移植目標を150本とし、最低でも80</p>	

本は移植したいと考えている。計画はこうだが実績としてはもっと移植できるかもしれない。

委員：資料のP9だが、昨年度はGL80mで20,000㎡だった。今年度も同じ箇所か。

事業者：資料P13をご覧頂きたいが、昨年度は5年目（平成30年度）の施工箇所であるGL80mを中心として20,000㎡吹き付けた。今年度はさらに外側を中心に20,000㎡吹き付ける予定だ。

委員：資料P9の吹付箇所は赤土もある程度ある。このあたりは石鏡方面から良く見えるので地盤改良もしながら吹付や移植を行ってほしい。

委員：移植する樹木の高さはどれぐらいを想定しているのか。

事業者：例えばアカメガシワは横に根が張るため、ある程度成長していると根を切らないといけなくなるので、少し小さめな状態を掘り起こして移植しようと考えている。例年だと地元町内会に頼りし手作業で外注した苗木を植栽していたが、今年度は重機をレンタルし周りの土を移植しようと考えている。

委員：移植時期はいつ頃を予定しているのか。

事業者：この委員会です承され次第速やかに行きたい。

委員：移植にも適時があるので、緑化の専門業者にも確認して一番いい時期に移植しないと活着しないことも考えられる。

事業者：確認する。

委員：資料P5～8及び資料P11～13について再度説明をお願いします。

事業者：（追加資料を配布）例えば資料P5をご覧頂きたいが、これは追加資料の2年目緑化区域である平成27年度に緑化工を施工した箇所の左端と右端からそれぞれ撮影している。資料P6～8も同様で、それぞれの資料ページは追加資料において各年度で区域された施工箇所において左端と右端からそれぞれ撮影している。

委員：比較するには資料をどのように見たらいいのか。同一視点ではないのか。

事業者：同一視点ではない。資料P5～8及び資料P11～13は過去の施工箇所の現況の写真だ。

委員：資料P6と資料P7の植物の繁茂状況が明らかに違うが何か要因があるのか。

事業者：資料P7の平成29年度の緑化工の施工時にはバーク材をより手厚く措置した。それが原因ではないかと考えている。ただ、見た目は確かに被覆されているがその大半が植栽した植物ではなく雑草。昨年度植栽したキヅタも雑草の繁殖力に負けてしまったと考えられる。

委員：資料P5～8はあくまで撮影日が不明だが直近の現状の写真。成果或いは育成状況の確認資料とはなっていない。次回には撮影日や撮影箇所が分かるように工夫をお願いします。

事業者：留意する。

委員：確認するが、今迄の説明を聞いている限り、緑化計画と現状に相違があるが、計画より遅れる箇所もあれば一部先行する箇所も生じつつ、活着が悪い箇所はその都度補植しいろんなことを毎年度試験的に施工していこうとの考えか。

事業者：大筋はその通りだが、機械的に植栽するだけでは結果が変わらないと感じ、今年度は更に根本的な地盤改良も行うほか、菅島の自生植物の移植や播種工も行いたいと考えている。

委員：「〇〇年度はここを施工しました」で終わりではなく、過去施工したが補植工が必要な箇所は何度も措置すると考えていいか。

事業者：その予定だが、成功するか否か定かでない状態で補植が必要な箇所に一度に施工するのは危険なので、繰り返すが今年度は資料P4及び10の色付けされた箇所で試験的に行わせてほしい。

委員：補植工について緑化協定書における履行期間がある中で時間的な問題はないのか。

事業者：問題ないと考えている。

委員：現地確認を行ったことで学識経験者を始め各委員からいくつか指摘事項があったと思うが、今回の緑化計画はどういったことが反映させているのか。また工夫する予定か。

事業者：昨年度試験的に施工した大山地区での法面への吹付だが、見た目判断するなら10%以下といったところ。平成29年度まで施工していたつる類については、少しずつではあるが成長しているが、昨年度植栽したキヅタについてはとてもでないが今年度も植栽しようとは考えられないので、今年度は昨年度とは違う手法を提案させて頂いた。つる類やつた類については他の手法があれば提案を頂きたい。

委員：つる類やつた類は今後も研究を重ね挑戦する予定か。

事業者：そのつもりでいる。

委員：学識経験者を始め各委員の意見も是非取り入れて挑戦してほしい。

委員：自生植物を移植とのことだが、他の委員が指摘していたとおり、時期や土の問題もあると思うが、その点については現時点でどのように工夫していく考えか。

事業者：活着が悪い箇所において地盤改良を行う予定でいる。重機で 50 c m程掘り起こした後、赤土と肥料を混ぜる予定だ。

(追加資料を配布しイメージを説明)

委員：法面の緑化については、つる類やつた類を植栽するよりも小段の土をもっと厚くすれば放置しても時間が経てばどんどん被覆していく。地盤改良はいいことだと思う。

事業者：今年度播種工を行う予定だが、各種 6,000 粒ほどを蒔く予定だ。他にも東山での吹付においては従来の 4 種に加えて今回はコマツナギやヤマハギの種子も混ぜて吹き付ける予定だ。

委員：コマツナギやヤマハギは外来植物ではなく菅島の自生植物で間違いないか。

事業者：自生植物であることを確認している。

委員：東山の補充植栽だが、小段のみか。

事業者：その予定だ。

委員：うまくいくか否か分からないが、法面にも植栽を試みてはどうか。

委員：法面の植栽は難しいのでは。

事業者：東山の法面だが、大山に比べ緩やかでありある程度客土があるため、現地においてもいつの間にか勝手に植物が生えてきている。

委員：いろんなことを試さないと 9 年の緑化計画のうちもう半分を経過した。写真をみるとまだまだ補植が必要なので、活着が悪い箇所はどんどん手を加えていかないと総括の評価としては厳しい評価が予想される。

委員：やはり市民の方は見た目目で判断するので、ある程度目に見える成果を残さないといけない。

委員：採石場といった植栽するには困難な環境の中、難しいことに挑戦していることを市民の方はほとんど知らない。これまでの 5 年間を無駄にしないためにも、もっと先進的に取り組んでいる団体等から何か英知を借りることはできないのか。そういった団体等に意見を聞くことも大事だと思う。事業者として努力もし経費も投入しているのに評価されないのもどうかと思う。実際大企業などは植栽しそのことを PR している。過半数の市民の方が何も変わっていないと思っているのではないか。

委員：今日は残念ながら欠席されているが、学識経験者にもそういった団体に心当たりがないか一度確認してはどうか。

事業者：了解した。

(※指摘事項や試験的に挑戦すること含め、計画通りしか施工しないのではなく、いいところはどんどん取り入れて施工することを前提に令和元年度の緑化計画について承認)

4. その他

(特に意見なし)